

# (社) 日本馬術連盟 平成 21 年度事業報告

(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

平成 21 年度事業については、平成 21 年 1 月 17 日の第 91 回通常総会において承認された事業計画および収支予算に基づき、理事会の決定・承認のもとに実施した。なお、一部の事業については、期中に補正を行った。

本年度の主な事業は以下のとおり。

平成 21 年度、競技力の強化については、2010 年に開催の Alltech FEI 世界馬術選手権大会個人出場資格を国内で取得できる競技会を JRA 特別振興資金の助成対象事業及び当連盟独自事業として開催した。馬場馬術では、CDI3\*競技会において八木三枝子選手とダウ・ジョーンズ号の 1 組が 2 回要件を満たすことができ個人出場資格を得ることとなった。また、総合馬術では、CIC3\*競技会において 3 組の人馬が 1 回目の要件を満たすことができ、22 年度に開催を予定している CCI3\*競技会で個人資格取得を目指すこととなり、一定の成果を挙げることができた。

第 16 回アジア競技大会 (2010/広州) の候補選手発掘を視野に入れ、外国人コーチを招聘しての各種国内強化合宿訓練を実施、あるいは海外強化合宿への派遣を行って世界に通じる優秀な選手および馬匹の養成に努めた。

平成 22 年 7 月に実施する選考競技会の会場手配や選考基準の制定など準備を行うとともに中国政府並びに農林水産省当局と調整を図り広州市への馬輸送のための連絡調整を行い、輸出検疫のための臨時検疫所の認定に向けた調査を行った。

国民体育大会においては新潟県並びに三条市当局及び新潟県馬術連盟の尽力によって、無事に馬術競技を終了することができた。

技術役員のレベルアップのため、外国人講師を招聘しての審判員講習会の開催あるいは海外の各種講習会への派遣を行った。

内国産乗用馬の活用振興策として、優秀な成績を収めた内国産馬の所有者に対して奨励金を交付するほか、生産者に対して感謝状を贈呈した。

都道府県への活動支援としては、都道府県馬術連盟に会員登録業務等の円滑な遂行を図るため支援を行った。組成団体へは、飼育助成および競技会の開催等への支援を行った。

インターネットを活用したウェブサイトと機関誌『馬術情報』との関連性を深め、速報性を必要とする記事と活字記録媒体としての記事の双方の利点を活

かして、馬術関連情報の広報活動充実化に努めた。

グリーンチャンネルが制作する馬術専門番組（馬術情報 JEF-TV 平成 21 年 10 月から月 1 回放送）の制作に関して、企画協力および番組司会者を派遣することで、番組の制作に協力し、もって馬術の普及・振興に貢献した。

公益法人関連法に則り、期限内に公益社団法人としての認定を受けるための事務を進めた。

JRA 特別振興事業の 3 年目として、ワールドカップファイナルに出場するための馬輸送費の一部補助を行い、2010 年度に開催される世界選手権での上位入賞を目指し海外で活動するトップライダーに活動費の一部補助を行った。

また、日本国内における国際競技会開催事業として、馬場・総合の 2 大会を開催した。

なお、各事業については、次のとおりである。

#### 1. 各種馬術競技会の主催及び公認

- ① 全日本障害馬術大会（ジュニアを含む）、全日本馬場馬術大会（ジュニアを含む）、全日本総合馬術大会（ジュニアを含む）、全日本エンデュランス馬術大会を主催した。また、国民体育大会馬術競技（新潟県）を文部科学省及び新潟県との共催で実施した。
- ② 馬場・総合の FEI 公認競技会（3\*）を開催した。また、2010 年 8 月にシンガポールにおいて開催されるサマーユースオリンピックの日本代表選考競技会を開催した。
- ③ 他団体が主催する CSI1\*-W・CCI2\*・CIC1\*・CIC2\*・CDI3\*・CEI1\*・CEI2\* および CEI3\* の FEI 公認の支援を行った。
- ④ 公認競技会のカテゴリー・馬のグレード制を円滑に運用して活性化に努めた。

#### 2. 馬術競技に関する各種規則の制定

- ① 日本馬術連盟の各種規則の制定および改廃を行った。
- ② FEI 各種規則の制定・改廃に対応して、必要に応じ国内規程への適用を図った。

#### 3. 国際馬術競技会等への参加および人馬の派遣

- ① 将来に繋がるジュニア層の強化及び発掘に努め、海外の競技会・合宿等に派遣した。
- ② 国際競技会等へ選手を派遣し競技力向上に努めるとともに、諸外国との交流・親善を深め、併せて国際馬術界の情報収集を図った。

#### 4. 馬術の普及および向上

- ① 国内外のコーチによる強化合宿を行い、騎乗・調教技術の向上を図った。
- ② 国際競技役員を養成するため、国際馬術連盟公認の講習会・研修会等に資格者を派遣した。また、同連盟公認の講習会を開催した。
- ③ 組成団体に対し飼育費助成、優秀乗馬助成、事業費および事務費の助成を行った。また、都道府県馬術連盟に対して事務費の助成を行った。
- ④ ウェブサイトの活用と馬術情報とのリンクにより、各種情報を広く迅速に展開し、馬術振興に努めた。
- ⑤ 馬事関連団体との連携を図りながら、馬術の普及に努めた。

#### 5. 会員および乗馬の登録

- ① 個人・団体会員および乗馬の登録を行った。
- ② 乗馬所有者の登録の明確化に努めた。
- ③ 国際競技に出場する人馬の登録業務を行った。

#### 6. 各種資格の認定

- ① 日本馬術連盟の主催・公認する競技会および国際競技会に参加するための騎乗者および競技役員の資格認定・登録を行った。
- ② 審判の専門化を含む技術役員の講習会を実施し、新規資格者の認定および技術の向上を図った。
- ③ 日本馬術連盟の獣医業務に関わる獣医師を確保するため、日本馬術連盟登録獣医師制度の推進を図った。
- ④ 準コーチの講習会を行うとともに、(財)日本体育協会公認スポーツ指導者養成制度における公認馬術コーチ養成に努めた。

#### 7. 馬術に関する事項の調査研究及び指導奨励

- ① 国際馬術連盟およびアジア馬術連盟の活動に参加するとともに国際情報を迅速に収集し、日本の馬術界の発展に努めた。
- ② 「一貫指導・競技者育成プログラム」に基づく研修を行った。
- ③ 全日本馬術大会における厩舎保安管理体制を整備し、馬ドーピング検査体制および獣医関連業務の充実を図った。
- ④ 主催競技会およびFEI公認競技会等で馬のドーピング検査を実施するとともに、ドーピング防止に関する知識の浸透を図った。
- ⑤ JADA 規程に則り、選手のドーピング防止に取り組んだ。

8. 優秀な競技馬の増加

- ① 優秀な競技馬の拡充推進のための奨励策として、優秀乗馬奨励金を交付した。
- ② 馬術用馬の資源確保および調教技術向上のため内国産馬の振興を図るため、奨励策として内国産優秀乗馬奨励金を交付した。
- ③ 国内の乗用馬生産団体と連絡を密にし、内国産乗用馬の資質向上のために必要な助言を行うとともに、優秀な成績を収めた乗用馬生産者に対して感謝状を贈呈した。

9. 機関誌等の発行、ウェブサイトの充実および広報活動

- ① 月刊機関誌「馬術情報」を刊行した。また情報の迅速な伝達及び各種データ公開のためウェブサイトを経営し、その充実に努めた。
- ② マスメディアに対し情報を積極的に提供し、馬術の振興に努めた。
- ③ 会員および乗馬登録システムの再構築のための検討を行った。

10. 人馬の表彰

- ① 当該年度の内外競技会において優秀な成績を収めた人馬の表彰を行った。
- ② 功勞人馬の表彰を行った。

11. 国際馬術競技力向上推進支援事業

- ① WEG(2010/ケンタッキー)出場資格対象競技としての馬場・総合の国際競技会(3\*)を開催した。
- ② 海外に活動拠点を置き WEG 出場に必要な資格要件を満たした選手(トップライダー)を対象に海外活動の支援を行った。
- ③ ワールドカップファイナル(障害)出場のための馬輸送費・選手渡航費の支援を行った。

12. その他の事業

- ① 新公益法人制度に対応するため、「公益社団法人」認定申請に必要な事務を進めた。

【会員数】

区 分	H21. 3. 31 (a)	入会者	退会者	H22. 3. 31 (b)	差引増減 (△：減)	対前年比 (b)/(a)	備 考
(1)正会員	72	4	5	71	△1	98.61	
イ. 都道府県馬術連盟	47	0	0	47	0	100.00	
ロ. 組成団体	5	0	0	5	0	100.00	
ハ. 学識経験者	20	4	5	19	△1	95.00	
(2)普通会員							
イ. 個人普通会員	6,800	629	764	6,665	△135	98.01	H21. 3. 31 登録数修正 6,801→6,800
ロ. 団体1種会員 (組成団体加盟団体)	296	8	19	285	△11	96.28	
全日本学生馬術連盟	87	1	4	84	△3	96.55	
全日本高等学校馬術連盟	107	3	12	98	△9	91.59	
日本乗馬少年団連盟	65	4	1	68	3	104.62	
日本社会人団体馬術連盟	37	0	2	35	△2	94.59	
ハ. 団体2種会員 (都道府県馬術連盟加盟団体)	350	11	12	349	△1	99.71	

【乗馬登録数】

区 分	H21. 3. 31 (a)	登録	抹消	H22. 3. 31 (b)	差引増減 (△：減)	対前年比 (b)/(a)	備 考
乗馬登録数	3,751	604	592	3,763	12	100.32	